

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業のタイトル (科目名)  保育内容 (人間関係)	授業の種類  ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者  柳田 真理子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数  12 回	時間数 (単位数)  24 時間 (2 単位)	幼稚園教諭専攻科  前期	必修・選択  必修
<p>[授業の目的・ねらい及び概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育内容を構成する人間関係について理解する。子どもの発達とともに、人間関係がどのように広がり深まっていくのかを理解する。保育における子ども、保育者、家庭、地域を含めた人との関わりについて理解し、保育の全体構造における人間関係に関して、総合的に、指導・展開・援助が行えるような理論を習得する。その上で子どもの発達に即した人間関係を育む援助や活動を構想できるようになることを目指す。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・乳幼児を取り巻く人間環境について理解する。(子どもが育つ環境である家庭・地域社会・保育教育機関それぞれでの人間環境や影響を「就学までに育みたい姿」を踏まえ、子どもが人と関わる力を育てる上で必要とされることを検証していく)</li> <li>2・乳児期の「人との関わり」に関する発達の課程を発達心理学の視点で検証し、理解を深める。(子どもの愛着形成や自己肯定・自己主張、自己発揮に対する理解と対応を学ぶ)</li> <li>3・幼児期の「人との関わり」に関する発達の課程を発達心理学の視点で考察する。3歳児以降の幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園・保育所保育指針のねらい及び内容を理解する。</li> <li>4・パーテンによる「遊びの発達段階」について理解する。遊びを通して育つ子どもの社会性の発達に着目し学ぶ。一人遊び・傍観遊び・平行遊び・連合遊び・協同遊びなど、子どもの遊びの基本的な形を学ぶ。</li> <li>5・パーテンによる「遊びの発達段階」の各段階における保育者の望ましい援助について考察する。遊びの変化は、子どもの人と関わる力の発達を象徴していることを理解する。</li> <li>6・0～2歳児の保育者と子どもの人間関係における留意点を理解する。保育者との信頼関係を基盤に仲間との人間関係が育むことができる保育者の指導・援助を考察する。</li> <li>7・3歳以上の保育者との子どもの人間関係における留意点を理解する。子どもの仲間意識を築く力を育てる上での保育者の援助のあり方について学ぶ。</li> <li>8・園生活において、子どもの自立心や自律心がどのように育つかについて理解する。互いに支え合い分かち合う意味ある集団に育つ家庭を理解する。</li> <li>9・子どもの活動において、自分の役割や立場、責任を理解し、主体的に行動することができるための援助を学ぶ。子どもが互いに認め合い、自己発揮できる環境について考察する。</li> <li>10・子どもが人間関係を育む中で必要なポイントを理解する。特に主体性・自発性・協同性・創造性等、全ての子どもに保障されるべき活動や育ちが保育の中で実現するために必要な指導や支援を学ぶ。</li> <li>11・現代社会の子育て環境を理解し、子育て支援にニーズを考察する。子どもの健全な成長・発達のために保育者と保護者の協力関係がいかに重要かを学ぶ。</li> <li>12・小学校との連携における「人間関係」の課題を理解する。幼児期と学童期の育ちの連続性の視点を養い、幼児期の学びが就学後の学びの基礎となることも理解する。</li> </ol>			
<p>[使用テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「コンパス保育内容 人間関係」(建帛社)</li> </ul> <p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</li> <li>・保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省・日本保育協会)</li> </ul>			

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点(75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点(25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。